



ぷらっとシネマ ヴェラは「悔い改める」か『ヴェラ・ドレイク』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩原, 弘子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15456



ヴェラは「悔い改める」か — 『ヴェラ・ドレイク』

第2次世界大戦から5年、ロンドン東に住むヴェラ・ドレイクとその家族は、つましいながらも幸福そうに見えた。経済的余裕はないが、一家はあの戦争を生きのびて、子ども2人も成人して職に就いた。ヴェラ自身は、通いの掃除婦として中流階級家庭で働く。仕事帰りには、ご近所にいる病気で動けない人、孤独な人、職をなくして途方に暮れている人の家に立ち寄り。てきぱきと片付け物をして、お茶を淹れ、ちょっとした会話を交わして、失意の人を励ます。うちに帰れば嬉々として家事をこなし、繕い物、掃除、炊事とヴェラの手が休まることはない。

しかし、献身的で善意にあふれ、だれからも愛されるヴェラには、20年間、夫にも告げずに続けてきた秘密の仕事があった。それが闇中絶だ。いや、「中絶」という語がヴェラの口から発せられることはない。ヴェラがしてきたのは、あくまでも「困っている娘さんを助けてあげる」ことだった。産むわけにいかない子を身ごもった女性の家を、ヴェラは人目をしのいで訪れる。湯を沸かし、洗面器いっぱいの石鹸水をつくり、それをスポイトで膣から注入する。翌日、下腹が痛くなったらトイレに行くように、それですべてが流れてくれる。やさしい笑顔でそう言い残して、ヴェラは立ち去る。問題が起きたことはなかった。ところがあるとき、女性の容態が悪くなり、病院にかつぎこまれる。ヴェラの秘密は警察の知るところとなる。愛娘の婚約を祝うパーティが始まろうというとき、警察がやってくる。事情を知らない家族は動揺し、そこから逮捕、裁判、収監に至る過程で、一家は苦しい葛藤を経験することになる。

監督マイク・リーは、イギリス労働者階級の生活感に根ざす視点で社会の矛盾を描く映画の作り手として知られる。これまでの作品でも、中絶への言及が何度かあった。労働者階級地区で医者と助産婦であった両親をもつリーにとって、中絶は常に人々の現実の一部、生きて死ぬ人生の一部だったと言う。望まない妊娠は、どんな階級の女性にも起こる。しかしこの作品でリーが描くのは、中絶をめぐる女性の苦しみにも階級の違いがあるという現実だ。中流階級の女性は、150ポンドの金を医者へ渡せば、精神疾患かなにかを理由にでっちあげて、合法的中絶をすることができた。

150ポンドというのは、労働者階級の女性が働かせる金額ではない。ヴェラ自身は人助けとして無償で引き受けていたが、ヴェラの善意につけこむ斡旋役のリリーが女性たちから受け取っていたのは2ポンドだ。

労働者階級の視点に立つリーがこの作品で最大の挑戦は、主人公に、望まない妊娠で苦境に立たされた女性ではなく、闇で中絶を幫助する女性を据えたことだ。闇中絶医といえ、独身で酷薄無情の魔女といったおぞましいイメージがあった。しかし違法を承知で実際に中絶を助けたのは、自身が母であったふつうの女性たちだ。子の親である女性が闇中絶をするようになるのは、なぜか。ヴェラの場合、どんなきっかけでこの仕事をするようになったかを推測できる場面がひとつだけある。「娘時代にあなた自身にも起こったことか」と尋ねる捜査官に、ヴェラがただ「はい」と答える場面だ。裁判の結果、ヴェラは1861年制定の人身保護法違反で有罪とされる。90年前のヴィクトリア時代的偽善道徳の遺物である法律と、産めない現実との矛盾を一身に背負わされた闇中絶医は、実は自身もかつて似たような境遇で中絶を経験した女性たちだった。

イギリス女性が合法の中絶の選択権を手にしたのは、女性解放運動が始まってまもなくの1967年である。そのほんの15年前には、女子刑務所はたくさんのヴェラであふれていた。映画の前半では明るく快活に話していたヴェラが、逮捕後はほとんど言葉を発しない。非合法の中絶しかない現実が、ヴェラの口から告発されることはない。逮捕で動揺する夫と子どもたちを見て、家族にすまないと思うヴェラの様子もよく描かれている。それでも、出所後のヴェラの「悔い改め」を確信する観客がどれだけいるだろうか。2年ほどの刑期を終えて出所したヴェラは、刑務所で会った女性たちのように、再犯をくりかえすにちがいない。そして、さらにその後のヴェラを私は夢想してみる。1960年代半ばに始まるイギリス女性解放運動には、60代以上の女性たちも参加していた。そのなかには、出所後、再犯者となっただけでなく、現実の矛盾を指摘する言葉を獲得したヴェラがいた、かもしれない。

(2004年、125分)